

日本におけるアカガシラサギの 分布と生息状況

新倉三佐雄¹、中村一恵²

はじめに

アカガシラサギ *Ardeola bacchus* (BONAPARTE) は、北はウスリー南部、スنگリ河までの中国東北部、内モンゴルからは、南は雲南までの中国南部、海南島、アッサムからビルマ北部にかけてのインドシナ半島基部に至る地域に繁殖し、冬期北方の個体群はインドシナ半島、マレー半島、ボルネオ島などに渡る。

日本へは従来迷鳥として渡来し、少くとも1960年頃までの記録数（南西諸島を除く）は10例にも満たなかった（Austin & Kuroda 1953, 日本鳥学会 1958, 清棲 1965）。しかもこれらの文献に記載された記録の多くは、北海道、宮城、山形、八丈島など主として本州中部以北の北日本において、9～2月の秋冬期に採集されたものである。おそらくは繁殖後の分散個体が季節風等の影響を受けて大陸から迷行したものと推定される記録であった。しかしながら、近年記録数が増えるとともに、渡来季節にも変化が生じている。1981年には熊本県で（吉島他 1981）、'86年には秋田県で（高橋他 1986）繁殖が確認された。越冬についても、沖縄県などで確認されており、近年本州中部の神奈川県でも記録された（新倉他 1986）。

このような日本におけるアカガシラサギの記録数の増加及び渡来季節の変化に注目した筆者らは、これまでの記録を整理し、分布と生息状況を把握することを目的として調査を行なった。調査は、すでに発表されている記録を文献等であたるとともに、日本野鳥の会の会誌「野鳥」を通じて全国の会員に情報提供の呼びかけを行なった。本報告は、これらの結果に基づき、日本におけるアカガシラサギの分布と生息状況について若干の考察を加えたものである。採餌法および食性などについても、近年の知見を整理した。記録は、この他にもあると考えられることを前もっておことわりしておく。今後、ご指摘をいただきより完全なものにしてゆきたい。

結果と考察

1. 記録数の経年変化と渡来季節

1879年から1986年までの107年間に113例の報告があった（付表一覧表参照、観察期日・場所の重複しているものは1例として扱った）。図1は、これらの記録に基づいて、年間記録数の経年変化を示したものである。1970年頃までは、数年から20数年に一度ごくまれに記録される程度でしかなかった。しかし'70年以降は毎年記録されるようになり、とくに'80

1987年10月10日受理

1. 〒253 茅ヶ崎市出口町4-31（神奈川県支部）
2. 〒231 横浜市中区南仲通5-60 神奈川県立博物館

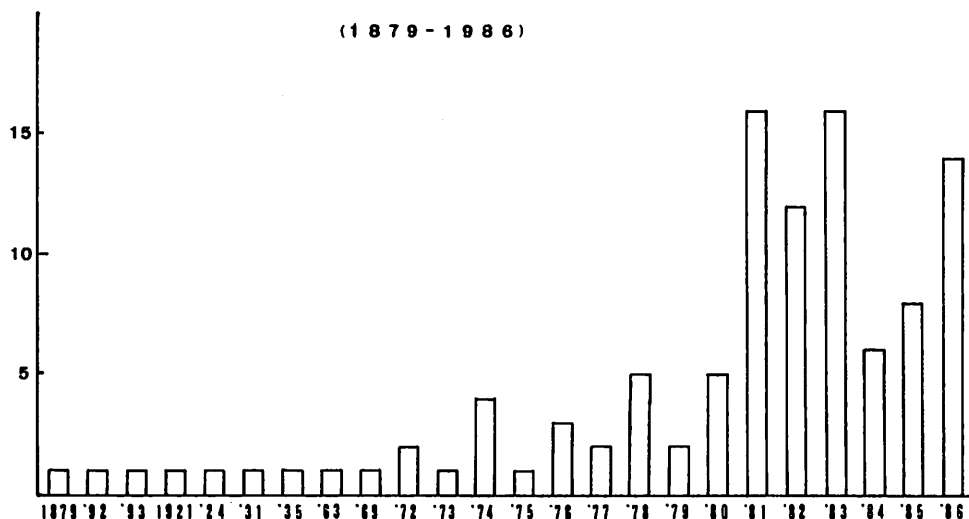


図1. 年間記録数の経年変化
Fig. 1. Changes in the annual number of records.

年以降、記録は漸増の傾向にある。1981年には'83年と並ぶ最大記録数（16例）が得られ、この年熊本県では繁殖が1例確認されている。'84年の記録数は、前年の3分の1程度であったが、'86年に再び増え14例の報告があった。この年秋田県で繁殖が確認されている。

表1に記録の重なりを示す。9ヶ所の地域で記録が重なっており、一度に複数羽の渡来があったことは明らかである。また、鹿児島県与論島では、1986年4月6日から4月30日の間に4羽記録されている。少なくとも1970年以前は、ごくまれに単独のものが記録される程度であったが、1981年以降は一度に複数羽の渡来も認められるようになった。こうした渡来状況の中で、繁殖が2ヶ所で確認されている。

渡来季節にも変化が生じている(図2)。1970年頃までの古い記録は、主として9月から2月までの秋冬期のもので、とくに9月から11月までの秋の移動期の記録が多い(図2の5月の1例は1963年、8月の1例は1969年のもので、比較的近年の記録である)。しかし1970

表1. アカガシラサギの記録の重なり(1981-1986)
Table 1. Overlap of occurrence records (1981-1986)

年 月 日	場 所
'81.9.28~10.7	愛媛県と岡山県
'82.5.22	石川県(舩倉島)と埼玉県
'83.5.9	島根県と神奈川県
'83.9.16~9.25	鹿児島県と宮城県
'85.10.10	福井県と東京都(八丈島)
'86.6.1~6.2	香川県と兵庫県
'86.6.25	静岡県と秋田県(繁殖)
'86.6.26	岩手県と秋田県(繁殖)
'86.10.12	神奈川県と宮城県

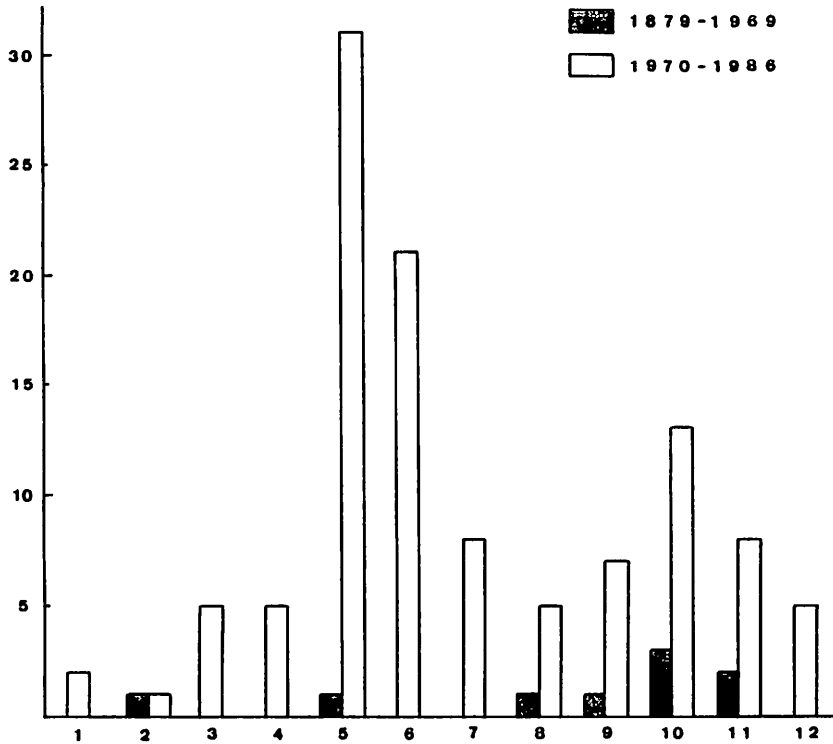


図2. 記録数の季節変化

Fig. 2. Seasonal changes in the number of records.

年以降は、むしろ5～6月の春から夏の記録が多くなっている。冬期の記録も、1970年以前は極めて少なかったが、'70年以降は数例の報告があり、その中には越冬と判断できる記録も含まれている。

以上のような事実は、記録数の増加が必ずしも観察者の増加に反映されたものだけではなく、日本へ渡来するアカガシラサギの個体数が増加していることを示唆するものであろう。渡来季節も、秋型から春型へ移行しているものと思われる。

2. 記録の地理的分布と渡来環境

地理的分布を図3に示し、アカガシラサギが記録された場所について記載のある近年の記録を環境別に整理した結果を表2に示す。全国的に記録されているが、分布は関東以西の西南日本に多く、沿岸や沿岸に近い内陸で記録される傾向がある。渡来環境は、水田・湿田・池沼・河川など、水辺や湿った場所で多く記録されている。用水路は採餌場所として利用していたものと思われ、島の岸壁は渡りの途中立寄った場所と考えられる。

3. 採餌習性およびその他の行動について

アカガシラサギの行動に関する観察記録のうち、採餌行動、他種のサギとの関係を中心に、近年の報告の中からとりまとめた。

1) 採餌行動

- a) 埼玉県新座市平林寺の池。1974年5月14日、池の浅い所に降りオタマジャクシ・小魚等を食べた様子(山口 1974)。

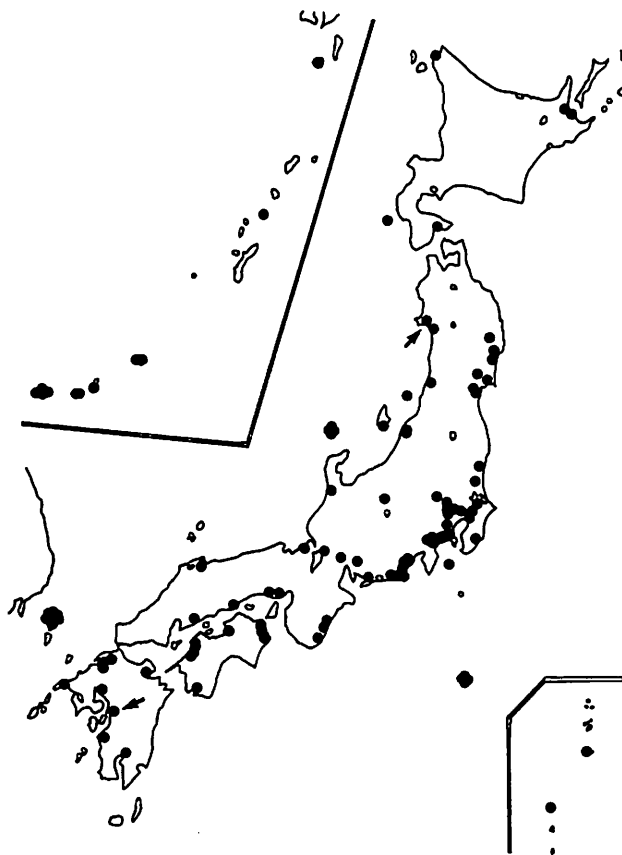


図3. 記録の地理的分布 (矢印は繁殖の確認された場所を示す)
 Fig. 3. Distribution of Chinese Pond Heron records in Japan.
 Arrows indicate the breeding sites.

表2. 記録数と生息環境の関係
 Table 2. Relationship between the number of records and habitat occupied by Chinese Pond Heron.

環境	記録数
水田・湿田・ハス田・休耕地	25例
池沼・湖畔	12
川・河川敷	8
湿地・湿源	6
用水路	3
農耕地	1
草地	1
島の岸壁	1

- b) 三重県南牟婁郡御浜町。1979年5月13日～5月15日、採餌行動は、水田のあぜ・池などの水辺で静止して待っている方法、水田を歩いてとる方法をする事が多かった(榎本他 1980)。
- c) 徳島県阿南市富岡町。1980年10月1日、飛んでいるトンボ類をそのまま捕えたり、水田にいる小動物を餌にしているようだった(吉田 1981)。
- d) 神奈川県茅ヶ崎赤羽根。1983年5月9日、ドジョウ2匹・アメリカザリガニ1匹を食べる。アメリカザリガニは、赤い大きなハサミを嘴ではさんでふり回してとり、頭から飲みこんだ(武裕一郎 1986 私信)。
- e) 秋田県秋田市立大森山動物園。1983年6月24日～6月29日、動物園の池で、コハクチョウ・ガチョウ・ペリカンなどの飼育鳥の餌の魚を食べていた(佐藤 1983)。
- f) 静岡県榛原郡吉田町川尻。1984年10月26日～10月28日・11月7日～11月17日、湯日川河口東側の養鰻池で錦鯉の稚魚を食べる。食べつくすと、養鰻池跡地の草むらでトノサマガエルを捕え、水際まで歩いて行ききれいに洗ってから飲み込んだ(福与義憲 1986 私信)。
- g) 神奈川県小田原市栢山。1985年10月25日、水田脇の用水路で水の中をのっそりのっそり採餌中、数時間同じ場所にいた(頼ウメ子他 1986 私信)。
- h) 神奈川県茅ヶ崎市赤羽根。1985年12月21日～'86年1月5日、湿田では、枯れた二番穂の間を歩きながら移動し、ドジョウを採餌した。移動は、まれに尾を上下する行動をまじえながらゆっくりと行なったが、餌をとるときは、すばやく嘴をのばし湿田にいるドジョウをはさみとった。また、湿田の中をはしる幅約1.5mのコンクリート製の用水路でも採餌を行なった。この場合は、用水路のふちでじっと水面をのぞきこみ、飛び込むようにしてドジョウを嘴ではさみとると、反対側のふちに飛び移った(新倉他 1986)。
- i) 愛媛県伊予郡松前町大間。1986年5月5日、ササゴイのように待ち伏せでオオフサモの上ののって、フナを嘴で突きさし捕食していた(亀嶋一哉 1986 私信)。
- j) 兵庫県加古川市平荘町池尻加古川河川敷。1986年6月1日～6月2日、流れの横で待ち伏せ、小魚を捕る、ササゴイのようきじっと待つのではなく、すぐに動き回る。魚を捕るのはあまり上手でない(前田他 1986)。

アカガシラサギが餌としているものは、ドジョウ・アメリカザリガニ・オタマジャクシ・トノサマガエル・フナ・錦鯉の稚魚・小魚・ペリカンなどの飼育鳥の餌の魚・トンボ類・水田の小動物などであった。この他、秋田県で繁殖した際に調査された結果では、幼鳥の餌としてトノサマガエル・トノサマガエルの幼生・アマガエル・フナなどが巣の下に落とされていたと報告されている(高橋他 1986)。

採餌行動は、水田や湿った場所で歩いて移動しながら餌をとる方法と、川・池などの水辺で待ち伏せしてとる方法を行なう。また、「飛んでいるトンボ類をそのまま捕える」、「アメリカザリガニのハサミを嘴ではさんでふり回してとり頭から飲み込む」、「草むらでトノサマガエルを捕え、水際まで歩いてゆき、きれいに洗ってから飲み込む」、「用水路のふちでじっと水面をのぞきこみ、飛び込むようにしてドジョウを嘴ではさみとると、反対側のふちに飛び移る」といった採餌行動が観察されている。

2) 他種のサギとの関係

- a) 三重県南牟婁郡御浜町。1979年5月13日～5月15日、近くにアマサギ50羽前後の集団が見られたが、群れに入ることはなく、単独行動であった(榎本他 1980)。
- b) 岡山県岡山市百間川、中島大地。1981年9月28日～10月11日、ねぐらではゴイサギ・ササゴイの群れに混じっていた(青山他 1982)。
- c) 神奈川県藤沢市川名。1982年5月17日、4羽のコサギに混じって飛翔していたが林に消え、しばらくして田んぼに舞いおりた。コサギ2羽とは別の田んぼで行動したり、同じ田んぼ内で近づいて行動して、コサギにちょっと追われるような感じのときもあった(桑原 1982)。
- d) 静岡県小笠郡大東町。1983年5月22日～5月29日、アマサギ・チュウサギの混群のはずれにいたが、………観察後30分ほどして飛び立ち、近くにあるサギのコロニーとは正反対の方向に飛び去った(大村他 1983)。
- e) 秋田県秋田市立大森山動物園。1983年6月24日～6月29日、動物園周辺には、杉林にゴイサギ200羽前後営巣しているが、アカガシラサギは、時々彼らと一緒に上空を飛びまわっていた(佐藤 1983)。
- f) 福井県三方郡久々子湖畔。1985年10月10日、南下する前に集まるアマサギ・チュウサギ・コサギの混群(約200羽)の中にいた(上木他 1986)。
- g) 香川県観音寺市流岡町。1986年6月1日～6月2日、財田川にかかる金熊橋上流、すぐ近くにサギのコロニーがあり、他のサギに混じり餌をとっていた(豊嶋立身他 1986 私信)。
- h) 岩手県陸前高田市高田町古川沼。1986年6月26日、ゴイサギ25羽の群れの中に入っていた(吉田 1987)。

以上のように単独で行動することもあるが、ゴイサギ・アマサギ・コサギ・チュウサギなど他のサギ類に混じって行動することも多いようである。繁殖は、熊本ではサギ類のコロニーの中(吉島他 1981)、秋田ではゴイサギのコロニーの中で(高橋他 1986)、それぞれ行なわれている。その他の行動としては、「休息などのため木にとまる(6例)」「ヨシゴイの擬態によく似た行動をする(3例)」「鳴き声は聞かれなかった(3例)」「川の中州でゴイサギ・ササゴイの群れに混じってねぐらをとっていた(1例)」などの報告例があった。

おわりに

アカガシラサギの冬羽および幼鳥羽はヨシゴイ類に似て頸に明瞭な縦の筋斑があるが、斑紋が似るばかりでなく、危検の接近に対してヨシゴイのとる擬態に似た行動をとる(中村 1973)。しかし繁殖期には冠羽が伸びて飾り羽となり、他のサギ類に混じって樹枝上にコロニーをなして営巣する(Hancock & Kushlan 1984)点ではシラサギ類に近い。採餌法もゆっくり歩きながらとるシラサギ型のとり方をする一方で、待伏せ法も使う点ではササゴイに似た点もある。頸を縮め背を低くめた姿勢は極めてササゴイに似ている。だが、ササゴイとは異なり、翼はシラサギ類のように白い。アカガシラサギはヨシゴイ類とササゴイやシラサギ類との中間的な習性・形態を残した、系統上興味ある種のように思われる。インドアカガシラサギ(*Ardeola grayii*)、アカガシラサギ(*A. bacchus*)、ジャワアカガ

シラサギ (*A. speciosa*), カンムリサギ (*A. ralloides*) の4種で上種を形成するが、とくに前3種は形態的に類似し、冬羽・幼鳥羽のものを野外で識別することは形常と難しいようである。しかしインドとジャワは留鳥性が強く、渡り性のあるのはアカガシラとカンムリサギの旧北区個体群(分布は南部ヨーロッパ, 小アジア)だけである(Hancock & Kushlon 1984)。インドやジャワが渡来している可能性は低く、したがって、日本に渡来しているのはアカガシラサギ (*A. bacchus*) 唯一種であろうと筆者らは判断している。

謝 辞

本報告をまとめるにあたっては、下記の方々から貴重な観察記録の提供をいただいた。また、日本野鳥の会の花輪伸一氏からは有益な助言をいただき、「野鳥」誌への呼びかけにあたっては、白井俊二氏のご協力をいただいた。これらの方々すべてに対し厚くお礼申し上げる。

相川健一郎・浅井潤治・伴野正志・福与義憲・後藤裕己・花輪伸一・稲垣猛史・磯清志・伊藤正道・亀嶋一哉・片田大・川村洋子・川瀬泰治・木村孝・小池正明・孝森優秀・黒川優・増田智久・三部一男・宮彰男・三宅隆・中井節二・西山薫・小原拓・岡部海都・大館勉・頼ウメ子・西條恭子・佐々木勇・笹森聡・佐竹清夫・佐藤昌彦・鹿内良範・曾根康男・鈴木道男・鈴木藤蔵・立川孝之・高木真一・高木由美子・武裕一郎・豊田陽一・豊嶋立身・渡辺明夫・矢田孝・山田雅啓・米地和夫・吉兼隆・吉兼富枝(敬称略)

要 約

近年の日本におけるアカガシラサギの記録数の増加などに注目し、分布と生息状況に関する調査を行なった。調査は、すでに発表されている記録を文献などであるとともに、日本野鳥の会の会員に情報提供の呼びかけを行った。得られた主な結果は次のとおりである。

- 1) 報告された記録数は、1879年から1986年までの107年間に113例であった。1970年以前は、数年から二十数年に一度記録される程度であったが、'70年以降は毎年記録されるようになり、'80年以降は漸増している。
- 2) 1970年以前は、9～2月の秋冬期の記録がほとんどであったが、記録の増えた'70年以降は、5～6月の春から夏にかけての記録が多くなっており、渡来季節が秋型から春型に変化している。一度に複数羽の渡来や冬期の記録が増えている中で、1981年と'86年に繁殖が記録されている。
- 3) 記録の地理的分布は、関東以西の西南日本に多く、沿岸や沿岸に近い内陸で記録される傾向がある。近年の記録を環境別にまとめてみると、水田・湿田・池沼・河川など水辺や湿った場所で多く記録されている。
- 4) アカガシラサギは、ドジョウ・アメリカザリガニ・オタマジャクシ・トノサマガエル・フナ・トンボ類などを餌とし、水辺で待ち伏せとる方法と、水田や湿った場所を歩きながらとる方法の両方を行なう。
- 5) シラサギ類やゴイサギなどに混じって行動したり、ねぐらを共有することもあり、繁殖もそれらのコロニー内で行なわれている。

文 献

- 安部淳一・安部文子・江口玄。1984。野鳥情報〔アカガシラサギ〕。野鳥49(1): 36
 愛知県。1983。愛知の野鳥 242。愛知県自然保護課
 秋山勁三。1982。野鳥情報〔アカガシラサギ〕。野鳥47(2): 26
 青山郷・西片道文。1982。野鳥情報〔アカガシラサギ〕。野鳥47(2): 26
 Austin, O.L. Jr. & Nh. Kuroda. 1953. The birds of Japan, their status and distribution. Bull. Mus.

Comp.Zool.189 : 279-637

- 千葉県. 1975. 千葉県鳥類目録. 22. 千葉県自然保護課
- 遠藤公男 (編). 1987. 岩手の鳥獣百科. 18. 岩手日報社
- 榎本健二, 森本和夫. 1980. 野鳥情報 [アカガシラサギ]. 野鳥45 : 430
- 榎本健二. 1983. 野鳥情報 [アカガシラサギ]. 野鳥48(3) : 36
- 藤波不二雄他. 1981. 野鳥情報 [アカガシラサギ]. 野鳥46(11) : 26
- 藤波不二雄, 池谷奉文他. 1981. 野鳥情報 [アカガシラサギ]. 野鳥46(11) : 26
- 福原研治他. 1984. 野鳥情報 [アカガシラサギ]. 野鳥49(1) : 36
- 花輪伸一. 1984. 屋久島原生自然環境保全地域における鳥類. 屋久島原生自然環境保全地域調査報告書. 569-585. 環境庁
- Hancock, J. and J. Kushlan. 1984. The Herons Handbook. Harper & Row, New York
- 広島県. 1980. 広島県の野鳥. 15. 広島県自然保護課
- 北海道. 1975. 北海道鳥類目録. 3. 北海道生活環境部
- 今井光雄. 1973. アカガシラサギの観察西表島にて. 野鳥38 : 268
- 石田健. 1981. 野鳥情報 [アカガシラサギ]. 野鳥46(8) : 31
- 石江馨. 1983. フィールドノート [アカガシラサギ]. 日本野鳥の会神奈川支部報 (161) : 10
- 石原保. 1982. 四国の野鳥誌. 45. 築地書館
- 石川県. 1977. 石川県の自然環境 (第3分冊鳥獣). 115. 石川県
- 石川野鳥の会. 1979. 舩倉島の鳥. 52-53. 石川野鳥の会
- 鴨川誠. 1978. 長崎県下サギ類の分布と生態. 平戸高校紀要創刊号. 11-21
- 風間辰夫. 1975. ササゴイの部分白化. 鳥23 (95/96) : 28
- 風間辰夫. 1976. ササゴイの部分白化の訂正について. 鳥25 (99) : 60
- 風間辰夫. 1982. 新潟県野生鳥獣生態研究会会報(6)
- 加藤俊哉. 1982. 鳥だより [アカガシラサギ] 日本野鳥の会茨城支部報 (129) : 7-8
- 勝野 (某). 1980. 日本野鳥の会愛知県支部報(5)
- 河辺久男. 1983. 千葉県野鳥の会会報 (108)
- 木村孝. 1987. フィールドノート [藤沢市付近の鳥]. 日本野鳥の会神奈川支部報 (181) : 11
- 清棲幸保. 1965. 日本鳥類大図鑑. 924-925 講談社
- 小林実. 1978. 阿波の野鳥. 122-123. 南海ブックス
- 小林豊. 1985. 鳥信 [アカガシラサギ]. 日本野鳥の会宮城県支部報 (89) : 19
- 小茂田英彦. 1987. 野鳥情報 [アカガシラサギ]. 野鳥52(5) : 30
- 河野裕美・庄山守. 1982. 西表島西部および仲の神島の鳥類相. Bull. Inst. Oceanic Res & Develop., Tokai Univ.(4) : 101-120
- 小杉光昭. 1978. 埼玉の鳥類. 埼玉県動物誌. 45-86. 埼玉県教育委員会
- 小山嘉一郎・古賀光利・藤門恵蔵・出島和子・宇山大樹. 1980. 冬季における沖縄の野鳥. 野鳥45 : 298-301
- 久貝勝盛・山本晃. 1981. 宮古群島の鳥類目録. 沖生教研会誌(44) : 15-29
- 桑原健次. 1982. 夏羽のアカガシラサギ. 日本野鳥の会神奈川支部報(154) : 11
- 前田崇雄・岩崎健二・木下文生. 1986. 野鳥情報 [アカガシラサギ]. 野鳥51(11) : 32
- 増田孝司. 1978. 与那国島の鳥類. 早稲田生物(20) : 71-76
- 榎山徳太郎. 1932. 日本産鳥類の新産地報告一東. 鳥7 : 301-328
- 中村一恵. 1973. 伊豆大島にアカガシラサギの渡来. 野鳥38 : 268-269
- 日本鳥学会. 1958. 日本鳥類目録 (改訂四版)

- 日本鳥学会, 1974. 日本鳥類目録 (改訂第5版), 学習研究社
 日本野鳥の会石川支部, 1983. 北国の野鳥 103, 誠文堂新光社
 日本野鳥の会神奈川支部, 1986. 神奈川の鳥1977-86, 神奈川県鳥類目録 30
 日本野鳥の会記録委員会, 1986. 野鳥情報・観察記録1984.9-1986.7, *Strix* 5: 90-91
 新倉三佐雄・武裕一郎, 1986. 茅ヶ崎市で越冬したアカガシラサギについて, *Strix* 5: 69-70
 西村文彦, 1982. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥47(5): 34
 小笠原岳, 1984. 秋田の野鳥百科, 9, 秋田魁新報社
 大村伴一・孝森優秀, 1983. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥48(9): 34
 太田峰夫・宮本勝海・松本晃一, 1981. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥46(1): 30
 三枝卓, 1979. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥44: 108
 佐藤仁志, 1984. 島根県鳥類目録, 112, 山陰中央新報社
 佐藤正生, 1983. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥48(9): 35
 清水幸男, 1985. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥50(6): 32
 白石輝光, 1982. 日本野鳥の会北九州支部報15(1)
 鈴木積穂, 1983. 鳥だより [アカガシラサギ], 日本野鳥の会茨城支部報(131): 9
 高木真一・高木由美子, 1986. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥51(1): 34
 高橋一郎・堤朗, 1986. 八郎潟干拓地内におけるアカガシラサギの繁殖記録, 生物秋田(20): 32-34
 高辻洋, 1981. [アカガシラサギ], 日本野鳥の会新潟支部(12): 6-7
 上木泰男・八田七郎右エ門, 1986. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥51(4): 34
 山口正信, 1974. 平林禅寺にアカガシラサギ, 野鳥39: 652
 吉田和人, 1981. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥46(1): 31
 吉田仟治, 1987. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥52(1): 34
 吉島敦子・岩下勝樹, 1981. 野鳥情報 [アカガシラサギ], 野鳥46(11): 27-28
 吉川吉枝, 1969. アカガシラサギの迷行, 野鳥34: 418
 吉兼隆他, 1982. 日本野鳥の会福岡支部報(50)
 吉尾直善, 1982. 野鳥情報 [ハッカチョウ], 野鳥47(2): 26
 無記名, 1982. 日本野鳥の会埼玉支部報(46): 12

Distribution of the Chinese Pond Heron, *Ardeola bacchus* (BONAPARTE),
and its present status in Japan

Misao Niikura¹ and Kazue Nakamura²

Recent records of Chinese Pond Herons were gathered to determine its distributional status in Japan. Results were as follows.

1. A common breeding bird in southeast China, the Chinese Pond Heron, rarely occurred in Japan until 1970. This apparently refers to post-breeding dispersal or vagrancy from the north. But the records of the species, especially spring-summer ones, have increased steadily since 1970, and breeding was observed in Kumamoto, Kyusyu, in 1981 and in Akita in northern Honshu in 1986. The nesting was in heronries mixed with other species such as Black-crowned Night Herons and Egrets.

2. Almost any kind of water edge seems to suitable for feeding. The method involved standing at the margins of ponds, waterways or ridges between rice-fields, or on water plants,

and walking slowly with a stealthy steps. One individual, standing at the margin of a waterway, would jump into the water and catch a fish. Fish (*Carassius* sp. and *Misgurnus anguillicaudatus*), frogs (*Rana* spp. and *Hyla japonica*), crustaceans (crawfish *Procambarus clarki*) and some insects (dragonflies) were recorded in the diet.

1 . 4-31 Deguchi-cho, Chigasaki-shi, Kanagawa 253

2 . 5-60 Naka-ku, Yokohama 231 Kanagawa Prefectural Museum

付表. 日本におけるアカガシラサギの記録 (1879-1986).

Appendix. Records of Chinese Pond Heron in Japan (1879-1986).

場 所	年 月 日	羽 数	出典・観察者	備 考
北海道				
函 館	1879.10.14	1	清棲幸保 1965	
稚内市	1974.5.24	1	北海道 1975	
根室支庁標津町	1978.6.3	1	三枝卓 1979	
奥尻島 (飛行場付近の湿地)	1983.5.16		宮彰男他 1986 (私信)	
標津郡標津町字古多塘	1985.6.11	1	日本野鳥の会野鳥記録委員会 1986	保護
秋田県				
秋田市 (市立大森山動物園)	1983.6.24~6.29	1	佐藤正生 1983 小笠原嵩 1984	
南秋田郡大潟村 (八郎潟干拓地)	1986.6.22~8.12	繁殖	高橋一郎他 1986	1 巣, 4 羽巣立つ
岩手県				
遠野市綾織町	1984.6.27	1	遠藤公男 1987	
陸前高田市高田町古川沼	1986.6.26	1	吉田仟治 1987	
山形県				
西田川郡温海町	1921.10.—	1	清棲幸保 1965	
宮城県				
石巻市	1892.10.—	1	清棲幸保 1965	
登米郡佐沼町	1935.11.1	1	清棲幸保 1965	
仙台市 (南長沼)	1983.9.1~9.29	1	佐竹清夫他 1987 (私信)	
気仙沼市気仙沼大島	1984.11.2	1	小林豊 1985	
仙台市六郷 (大沼)	1986.10.12	1	米地和夫 1986 (私信)	
茨城県				
—————	—————	1	清棲幸保 1965	場所, 年月日不明
水戸市見川	1982.7.8, 20, 22	1	加藤俊哉 1982	
高萩市上君田	1982.8.26, 28, 31	1	加鈴木積穂 1983	
稲敷郡桜川村 (浮島)	1986.7.5	1	佐々木勇他 1986 (私信)	
埼玉県				
新座市平林寺	1974.5.14	1	山口正信 1974	
川越市小宮町	1977.1.3	1	小杉光昭 1978	

場 所	年 月 日	羽 数	出典・観察者	備 考
三郷市 (三郷公園予定地)	1981.6.7	1	藤波不二雄他 1981	
浦和市大久保 (荒川河川敷)	1982.5.17~5.22	1	無記名 1982	
北本市石戸宿	1982.5.23~6.5	1	無記名 1982	
本庄市上仁手 (利根川)	1986.11.30	1	小茂田英彦 1987	
千葉県				
新浜鴨場	1963.5.一	1	千葉県 1975	
印旛郡本埜村	1983.3.17	1	河辺久男 1983	
夷隅郡御宿町実谷	1986.6.15	1	鈴木藤蔵 1986 (私信)	
神奈川県				
小田原市柏山	1982.5.7	1	頼ウメ子 1986 (私信)	
藤沢市川名森久	1982.5.17	1	桑原健次 1982	
茅ヶ崎市赤羽根	1983.5.9	1	武裕一郎 1986 (私信)	
横浜市港北区小机	1983.6.14	1	石江馨 1983	
小田原市寿町 (酒匂川)	1984.10.7	1	日本野鳥の会神奈川支部 1986	
小田原市栢山	1985.10.25	1	西條恭子他 1986 (私信)	
茅ヶ崎市赤羽根 中島~萩園 (小出川)	1985.12.21~'86.2.9	1	新倉三佐雄他 1986	
茅ヶ崎市萩園 (小出川)	1986.2.16	1	日本野鳥の会神奈川支部 1986	
藤沢市川名	1986.10.5~11.17		木村孝 1987, 木村孝 1987 (私信)	
伊豆諸島				
八丈島大賀郷	1924.9.28	1	榎山徳太郎 1932	
八丈島大賀郷	1931.11.12		榎山徳太郎 1932	
伊豆大島岡田港	1972.10.27	1	中村一恵 1973	
八丈島	1985.10.9~10.11	1	高木真一他 1986	
八丈島八丈町三根	1985.11.8~11.10	1	高木真一他 1986 (私信)	
小笠原諸島				
北硫黄島	——		日本鳥学会 1974	年月日不明
母島沖村沖港	1981.5.3~5.4	1	藤波不二雄他 1981	
新潟県				
新潟市赤塚 (佐潟)	1969.8.23~8.30	1	吉川吉枝 1969	
佐渡郡羽茂町	1973.12.13	1	風間辰夫 1975, 1976	
新潟市赤塚	1981.7.11	1	高辻洋 1981	

場 所	年 月 日	羽 数	出典・観察者	備 考
岩船郡粟島	1981.10.—	1	風間辰夫 1982	
長野県				
更級郡川中島	——	1	滑棲幸保 1965	年月日不明
静岡県				
小笠郡浜岡町	1980.8.9~9.23	1	太田峰夫他 1981	
小笠郡大須賀町	1983.5.22	1	佐藤留彦 1983 (私信)	
小笠郡大東町	1983.5.22~5.29	1	大村伴一他 1983	
静岡市麻機	1983.5.29	1	佐藤留彦 1983 (私信)	
静岡市立石	1983.6.12	1	伴野正志他 1986 (私信)	
静岡市諏訪	1984.5.26~6.1	1	伴野正志他 1986 (私信)	
榛原郡吉田町川尻	1984.10.26~10.28, 11.7~11.17	1	福与義憲 1986 (私信)	
静岡市池田 (静岡市立日本平動物園)	1986.6.25	1	渡辺明夫他 1987 (私信)	
愛知県				
汐川河口	1978.5.26~7.11	1	愛知県 1983	
猿投山東大演習林	1982.8.21		勝野 (某) 1983	
石川県				
河北潟	1974.9.20	1	石川県 1977, 石川野鳥の会 1979	
柚倉島	1976.5.5	1	石川県 1977, 石川野鳥の会 1979	
柚倉島	1976.5.9~5.10		石川県 1977	
柚倉島	1978.5.5	1	石川野鳥の会 1979	
柚倉島	1982.5.22	1	日本野鳥の会石川支部 1983, 磯清志他 1986 (私信)	
福井県				
三方郡久々子湖畔	1985.10.10	1	上木泰男他 1986	
岐阜県				
養老郡養老町杉本	1982.6.17~6.19	1	黒川優 1986 (私信)	
三重県				
南牟婁郡御浜町	1979.5.13~5.15	1	榎本健二他 1980	
熊野市有馬町	1981.11.12~11.22	1	榎本健二 1983	
和歌山県				
東牟婁郡那智勝浦町	1982.11.23~11.24	1	中井節二 1986 (私信)	

場 所	年 月 日	羽 数	出典・観察者	備 考
滋賀県				
東浅井郡湖北町上山田	1984.6.6~6.9	1	清水幸男 1985	用水路にて保護
兵庫県				
神戸	1983.2.一	1	清樓幸保 1965	
加古川市平荘町池尻	1986.6.1~6.2	1	前田崇雄他 1986	
加古川河川敷				
岡山県				
岡山市百間川, 中島大池	1981.9.28~10.11	1	青山郷他 1982	
広島県				
竹原市	1976.6.6	1	広島県 1980	
島根県				
飯梨川河口	1983.5.9		佐藤仁志 1984	
香川県				
観音寺市流岡町	1986.6.1~6.2	1	豊嶋立身他 1986 (私信)	
徳島県				
鳴門市	1974.5.一	1	小林実 1978	
阿南市富岡町	1980.10.1~10.15	1	吉田和人 1981	
徳島市入田町	1981.6.12	1	石原保 1982	
愛媛県				
松山市重信川	1977.5.25	1	石原保 1982	
松山市重信川	1981.4.28~4.30	1	石原保 1982	
松山市出会重信川, 伊予市松前町	1981.9.28~10.7	1	秋山勁三 1982	
伊予郡松前町大開間	1986.5.5		亀嶋一哉 1986 (私信)	
高知県				
宿毛市二ノ宮	1986.5.9~5.10		日本野鳥の会野鳥記録委員会 1986	
福岡県				
山門郡大和町 (大和干拓)	1981.9.26	1	吉兼隆 1986 (私信)	
福岡市西区今津	1982.5.16	1	吉兼隆他 1982	
鞍手郡小竹町	1983.7.3, 9, 17, 24	1	福原研治他 1984	
福岡市西区今津	1986.6.30	1	岡部海都他 1986 (私信)	
佐賀県				

場 所	年 月 日	羽 数	出典・観察者	備 考
			日本鳥学会 1974	場所, 年月日不明
長崎県				
平戸市大志々伎町	1975.5.7		鴨川誠 1978	
対 馬				
佐 護	1981.12.20	1	西村丈彦 1982	
佐護川	1981.12.31		白石輝光 1982	
佐 護	1982.4.29~5.1	1	矢田孝 1986 (私信)	
佐 護	1982.4.30	1	大館勉他 (未発表)	
佐 護	1982.5.2	1	吉兼隆他 1986 (私信)	
佐 護	1983.5.1~5.2	$\frac{5}{2}$ 2 $\frac{1}{2}$ 1	吉兼隆他 1986 (私信)	
佐 護	1985.4.30	2	矢田孝 1986 (私信)	
佐 護	1985.11.3	1	吉兼隆他 1986 (私信)	
大分県				
杵築市本庄	1983.4.30	1	立川孝之他 1986 (私信)	
熊本県				
下益城郡城南町	1981.7.19~8.30	繁殖	吉島敦子他 1981	成鳥と4羽の幼鳥
鹿児島県				
屋久島	1978.5.7		花輪伸一 1984	
出水市	1981.7.7	1	吉尾直善 1982	
国分干拓	1983.9.16~9.25	1	安部淳一他 1984	
大島郡与論島	1986.4.6~4.30	4	日本野鳥の会野鳥記録委員会 1986	
沖縄県				
宮古島	——		日本鳥学会 1974	年月日等不明
石垣島	——		日本鳥学会 1974	"
与那国島	——		日本鳥学会 1974	"
西表島	1972.3.18	1	今井光雄 1973	
与那国島	1978.3.22	1	増田孝司 1976	
与那国島 (田原湿原)	1979.12.27~12.30	1	小山嘉一郎他 1980	
与那国島 (東部の水田)	1980.4.30	1	花輪伸一 1987 (私信)	
与那国島 (田原の湿地)	1980.5.2	1	花輪伸一 1987 (私信)	
伊良部島	1980.10.18	1	久見勝盛他 1981	

場 所	年 月 日	羽 数	出典・観察者	備 考
与那国島 (田原湿原)	1981.3.5	1	石田健 1981	
西表島	1981.3.12		河野裕美他 1982	